

いしざきレポート



2006年5月

田んぼには豊かな水が満々
豊饒の大地にもうすぐ
育てられた苗がとどく

終末期医療と在宅ホスピスケア

国道296号線(成田街道)自衛隊
演習場側の歩道に残る危険杭

公明党

市議会議員 いしざき ゆきお

自宅:船橋市松ヶ丘5-46-4

自宅:電話・ファックス 469-7966

市役所控え室:電話 436-3032

国道296号線(成田街道)・・・自衛隊習志野演習場に沿った歩道の緊急処置整備

歩道上に境界を示す杭が50本以上。
防衛庁が設置している境界杭、千葉県が設置する境界杭が歩道上に残っています。
そしてその歩道は防衛庁側に20cm以上も高くなっています。

この度、公明党山崎とよこ県会議員の申し
いれに拠り、杭の撤去工事が始まります。
引き続き段差解消の整備に向け、防衛庁、
千葉県などに申し入れしてまいります。



ご意見・ご提言をファックスにてお待ちしております。

(ご連絡先)

「在宅ホスピスケアと終末期医療」

末期がんになっても、在宅ホスピスを受けながら、自分の責務を立派に果たした人が私の身近にいます。

昨年末まで大変お元気で、日本舞踊を舞い、研究されていた美しい姿が目には浮かびます。そのYさんが逝って2ヶ月がすぎました。家族の愛情に支えられ、亡くなる直前まで見事なまでに生き生きと輝いた人生を送られました。

自分で自分の「生死」を語り、選んだことと思いました。

人生最後の日々を自宅で過ごしたいと願う人は多くいます。

「治る見込みがない病気になった時、最期はどこで迎えたいか」との問いに、五十一歳が「自宅」と答えますが、自宅で亡くなる人は十二歳とどまります。願いと現実の大きな乖離があります。

末期がんなどの人が最期まで自宅で暮らせるように支える仕組みが、在宅ホスピスケアです。訪問看護師の訪問、医師の往診、家族の援助などが集結し、成立するケアであります。

船橋市も本年緩和ケア病棟建築に設計費を予算計上しました。

終末期医療、それは最期までその人がその人らしい人生を生きるための必要なサポートであり、制度面の支援が始まりました。